

女子大生にみる化粧観

化粧は半数が身だしなみ
5人に1人が電車で化粧

1999年11月25日

ポーラ文化研究所
村澤博人 / 高谷誠一

はじめに

昨年来、「色白」「顔黒」と肌色のことが話題となっている。流行の影響を一番受けやすい世代の一つである女子大生たちはどのように思っているのだろうか。そこで、肌色を中心に、化粧についてどのような考え方、価値観をもっているのかを探り、彼女たちのおしゃれ観の一端をのぞいてみることにした。

I. 目的

女子大生の化粧に対する意識を多面的に調査して、彼女たちの化粧観を明らかにする。

II. 方法

女子大生を対象にアンケート方式（アンケート用紙は最後に添付）で回答してもらう方法を選んだ。首都圏にある女子短大、女子大、および札幌の女子大の学生を対象に、305名の回答を得ることができた。以下はその結果である。

III. 調査結果

III - I. 化粧観について

a) 外出時の化粧は約 2 / 3 が気になる

外出時に、きちんとお化粧しないと気がすまない人、素颜でも平気な人などいろいろいるだろう。30年ほど前までは人前に出るときは化粧するのがエチケットとされたが、学生が化粧をすることにより社会は批判的であった。もちろん今ではそのようなことに束縛されることは少なくなった。では現実はどうだろうか。

そこで「外出して人に会うときに、お化粧しない素颜でも平気か」どうかを聞いた。結果は図1のように、「たいへん気になる」人17%と、「やや気になる」人41%を合計した「気になる」人は58%いる。逆に「気にならない人」は、「あまり気にならない」の18%と「まったく気にならない」の12%を合わせた30%。「気になる」人＝お化粧した顔の方がよいとする人は「気にならない」人＝素颜でも平気な人の2倍いた。まだまだ外出時はお化粧した顔が大事にされているという結果である。

図1 化粧しないで外出は

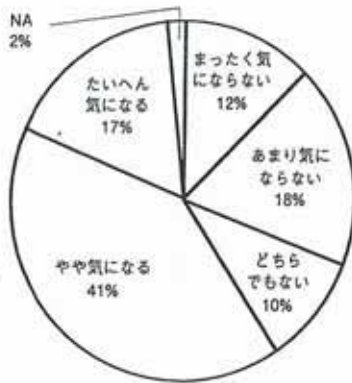


図2 外出時に化粧する最大の理由

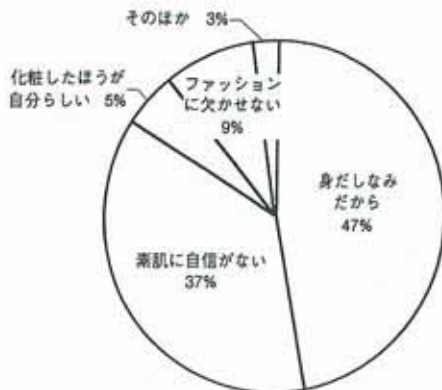
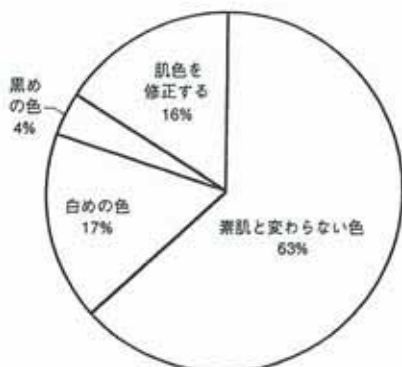


図3 ファンデーションに求める色



b) 外出時に化粧する最大の理由

では、「なぜ外出時に化粧する」のだろうか。最大の理由を選んでもらった。図2が結果である。もっとも回答が多かったのが、47%の「身だしなみだから」という理由。まわりとの調和、エチケットという意味合いが含まれる。

次に多かったのは「素肌に自信がない」で37%いた。「身だしなみだから」と同様、消極性を感じる。両者を合わせた消極派は84%と圧倒的多数となる。

それに対して、「その他」を除く「ファッションに欠かせない」「化粧したほうが自分らしい」はそれぞれ9%、5%と数は少ないが、お化粧をファッションの一部として生かしたり、自分らしさをお化粧で出そうという積極派である。

図4 肌色の修正方向

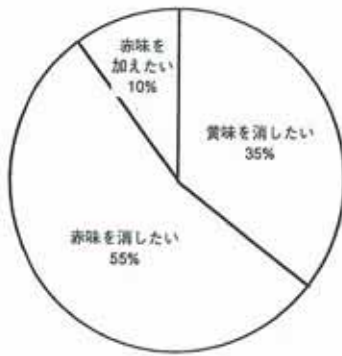


図5 素肌の美しさを左右するもの

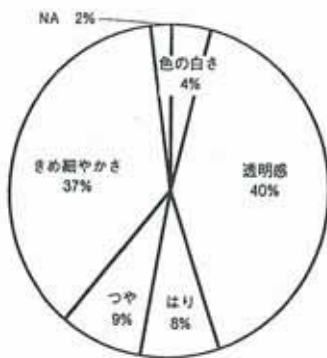


図6 ファンデーションをつかう理由

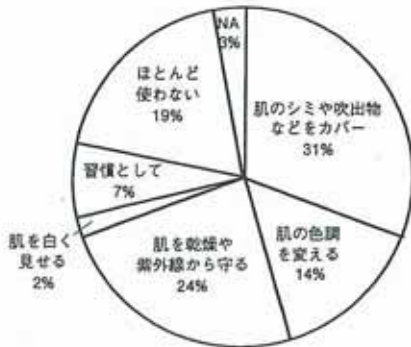


図7 顔の印象を決めるもの



c) ファンデーションに求める色

では、ファンデーションに期待する色は何だろう。結果は図3に示すように、「素肌と変わらない色」を求める人が63%と過半数を占める。メイクアップはするのであるが、ベースは自然な仕上がりを求めるナチュラル志向である。

2位は「白めの色」で、17%と大きく下がる。ほぼ同率16%で「肌色を修正する」人が続く。約6人に1人は色味を修正したいと思っている。「黒めの色」を期待するのはたった4%とごく少数派である。

d) 肌色の修正方向

ではこの「修正」とは何だろう。図4に示すように、55%、半数以上は「赤味を消したい」と赤味に悩んでいるようだ。つぎに「黄味を消したい」で35%、逆に「赤味を加えたい」が10%いる。

e) 素肌の美しさを左右するもの

つぎに「肌の美しさ」について聞いている。図215に「美しさを左右するものは何か」を聞いた結果を示した。「透明感」と「きめ細やかさ」がそれぞれ40%、37%で、ほかより抜きん出ている。

f) ファンデーションをつかう理由

念のためにファンデーションを使う理由も聞いてみた(図6)。第一位は「肌のトラブルカバーのため」31%である。二位が「肌を乾燥や紫外線から守るため」24%。「ほとんど使わない」が19%いた。

g) 顔の印象は目が第一

では、肌の色は、「顔の印象」にどのぐらい影響力があるのだろうか。図7の結果を見ると、「顔の印象」を決めるのは、圧倒的に「目」で57%、次が「表情」で28%。「肌の色」は6%にすぎなかった。

図 8 魅力的になるため、現在、気を配っていること

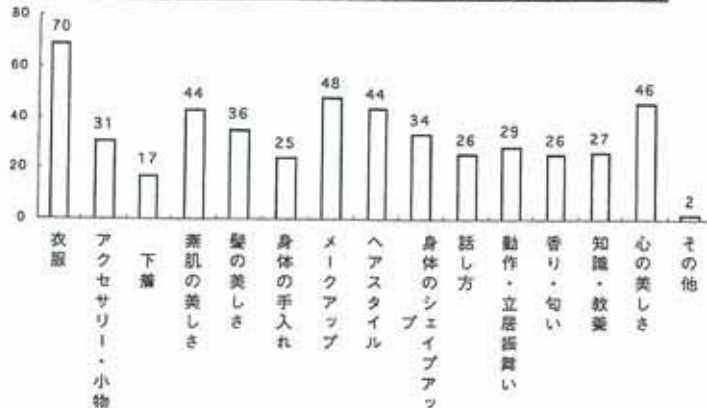


図 9 魅力的になるため、これから気を配りたいこと

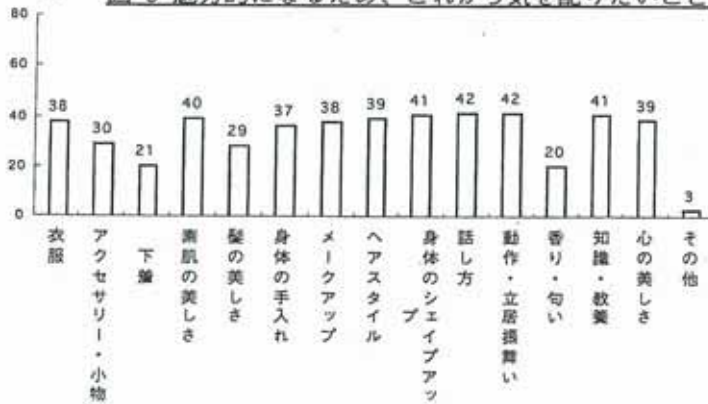


図 10 メイクアップへの態度

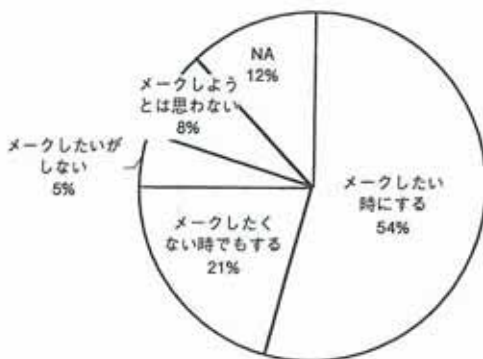
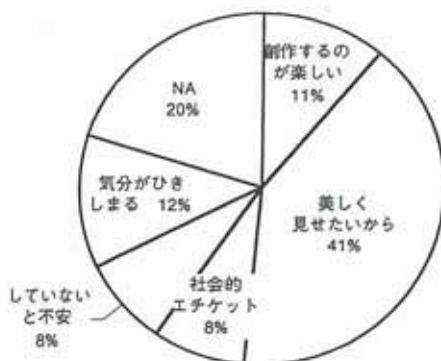


図 11 メイクアップをする最大の理由



h) 「素肌」への気配りは

「素肌の美しさ」に対する気配りは現在どの程度あり、これからどれほど気を配りたいか、について質問している。図 8、9 が結果である。

「現在」の「素肌の美しさ」の気配りは44%と、トップの「衣服」70%に比べると低いものの、「メイクアップ」48%、「心の美しさ」46%、にに次ぐ支持率で、「ヘアスタイル」と同じである。

「これから」については「素肌の美しさ」の気配りは40%で、「話し方」「動作・立居振舞い」が

42%、「身体のシェイプアップ」「知識・教養」の41%に続くが、ほとんどの項目が40%前後に集中しており、明確な傾向が出ていない。

i) メイクアップへの態度とメイクアップする最大の理由

最後に、メイクアップに対する態度とメイクアップする理由を質問している。まず、態度。図 10 を見ると、「メイクアップしたい時にする」が54%でトップ。つぎに「メイクアップしたくない時でもする」が21%で続く。この質問で無回答 (NA) が12%と多いのが目立つ。無回答が多い、ということはこのような問いをふだんあまり考えていない、ということだろうか。

また、「メイクアップする最大の理由」についても、前問同様、無回答が20%と多い。このような問いをふだんあまり考えていない、ということであり、ほかの回答に対して大きなノイズとなろう。

念のためにメイクアップする最大の理由は、「美しく見せたい」で41%。あと「気分がひきしまる」「創作するのが楽しい」がほぼ同率で2位、3位を占める結果であった。

III - III . 電車での化粧について

図 12 電車の中で化粧の経験

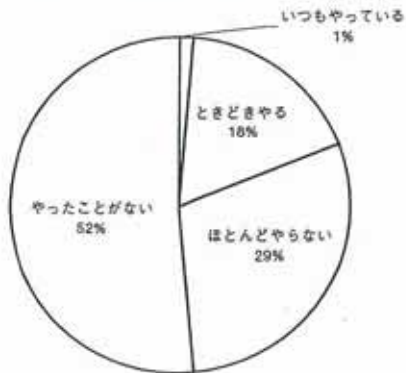


図 13 電車の中で化粧する理由

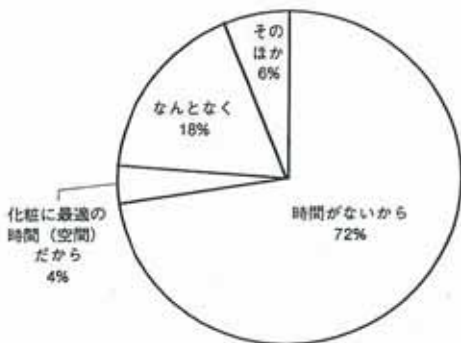


図 14 他人の電車の中で化粧を見て

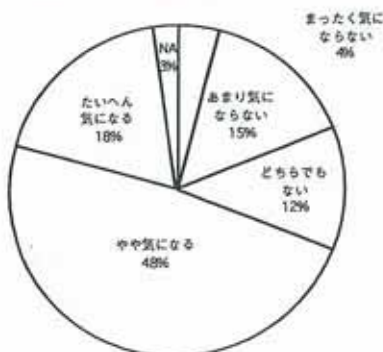


図 15 「電車で化粧している」と「気になる」の関係

	たいへん 気になる	やや気になる	どちらでも ない	あまり気 ならない	まったく 気にならない
化粧している	7	38	7	35	13
化粧していない	21	53	13	11	3

最近では、女性に限らず、若い男性も見かけるようになった電車内での化粧。実際にどのくらい若い女性が電車内での化粧をしているのだろうか。集計結果を見てみよう。

a) 電車の中での化粧の経験

図 12 は車内での化粧の率である。「いつもやっている」人が 1%、「ときどきやる」人が 18% いる。

残りの 81% は「ほとんどやらない」「やったことがない」人である。

b) 電車の中で化粧する理由

ではなぜ電車内で化粧するのだろうか。図 13 を見ると、「時間がない」が 72% で最大の理由。つぎに「なんとなく」が 18% となり、「化粧に最適な時間(空間)だから」は 4% と続く。化粧する時間がないほど忙しいということなのだろうか。

c) 他人の電車の中での化粧を見て

ついでに、「他人の車内での化粧行動」を見たときどう思うかを聞いている。図 14 である。その結果は「まったく気にならない」4%、「あまり気にならない」15% を合わせた「気にならない」人は 19% で、約 5 人に 1 人である。一方、「たいへん気になる」の 18% と「やや気になる」の 48% を合わせた「気になる」人は 66%、3 人に 2 人いたことになる。残りの人は「どちらでもない」で 12% だった。

d) 「電車で化粧している」と「気になる」の関係

最後に、自分で社会で化粧をしている人は他人の車内での化粧をどう見るのだろうか、化粧していない人と比較してみた。図 15 を見ると、車内で化粧している人のほうが他人の車内での化粧も気にならない傾向にある。

逆にしていない人ほど気になるようである。

IV . 考察

IV - I .化粧観について

外出時の化粧は約2/3が気になるという結果である(図17)。また外出時の化粧の理由は半数が「身だしなみだから」47%(図18)。次に多かったのは「素肌に自信がない」で37%。「身だしなみだから」と合わせて84%が受け身的な回答である。「周りを気にする」という従来型の日本社会の特性がしっかりと残っているように思える。

ファンデーションに「素肌と変わらない色」を求める人が過半数を占める(図19)。一方で、肌の修正方向は半数以上が「赤味を消したい」と赤味に悩んでいる(図20)。中高年以上では、「赤味」=血液の流れ=ハリのある肌、となるが、「赤ら顔」に悩む学生は、平均年齢が19歳と若いので、血の気が多いためだろうか。肌の「美しさを左右するもの」は「きめ細やかさ」と「透明感」という結果である(図21)。このふたつを満足させられれば、「美しい」ということだろうか。

肌色と「顔の印象」の関係を見ると(図23)、「顔の印象」を決めるのは、圧倒的に「目」で、「肌の色」は8%にすぎなかった。やはりまずは「目」からということになる。1997年に実施した顔の美醜観の調査レポートでは、顔の中で好きな部位のトップが「目」であった。しかも半数以上の支持がある。それほどに「目」は重要で、ほめられれば喜ばれる部位ということになる。

アンケート回答者の学生たちは全員がメイクアップを日常的にやっているわけではないので、無回答が目立った(図24、25)。日常的なメイクアップの程度によって分析できるように、アンケートの設計で配慮すべきであったと思う。

IV - III .電車での化粧について

電車の中での化粧行動については、人前で素顔を見せるな、化粧するなという反対論から、きれいに見せるために必要な行動だ、忙しいのだからしかたないなどの肯定論までいろいろと議論されてきた。最近では若い女性だけでなく中高年の女性も見かけるようになったし、男性もごくたまに見る。では、一番多いと思われる10代から20代にかけての女性はどう思っているのだろうか。このアンケートで質問してみた。

電車の中での化粧の経験(図28)は19%で、5人に1人という率に迫っている。理由も「時間がない」が最大の理由(図29)。しかし一方、「他人の車内での化粧行動」を見た時、「気になる」人は3人に2人以上いた(図30)。車内で化粧していい人のほうが他人の車内での化粧も気になる傾向にある(図31)。当たり前といえば当たり前かもしれないが、まわりの人に対する気配りのなさを感じざるを得ない。人前で勝手に化粧中のひどい顔を見せて、いや自分の顔のみに没頭して化粧に夢中になっている。それほどに、平和で安全な車内ということなのだろうか。